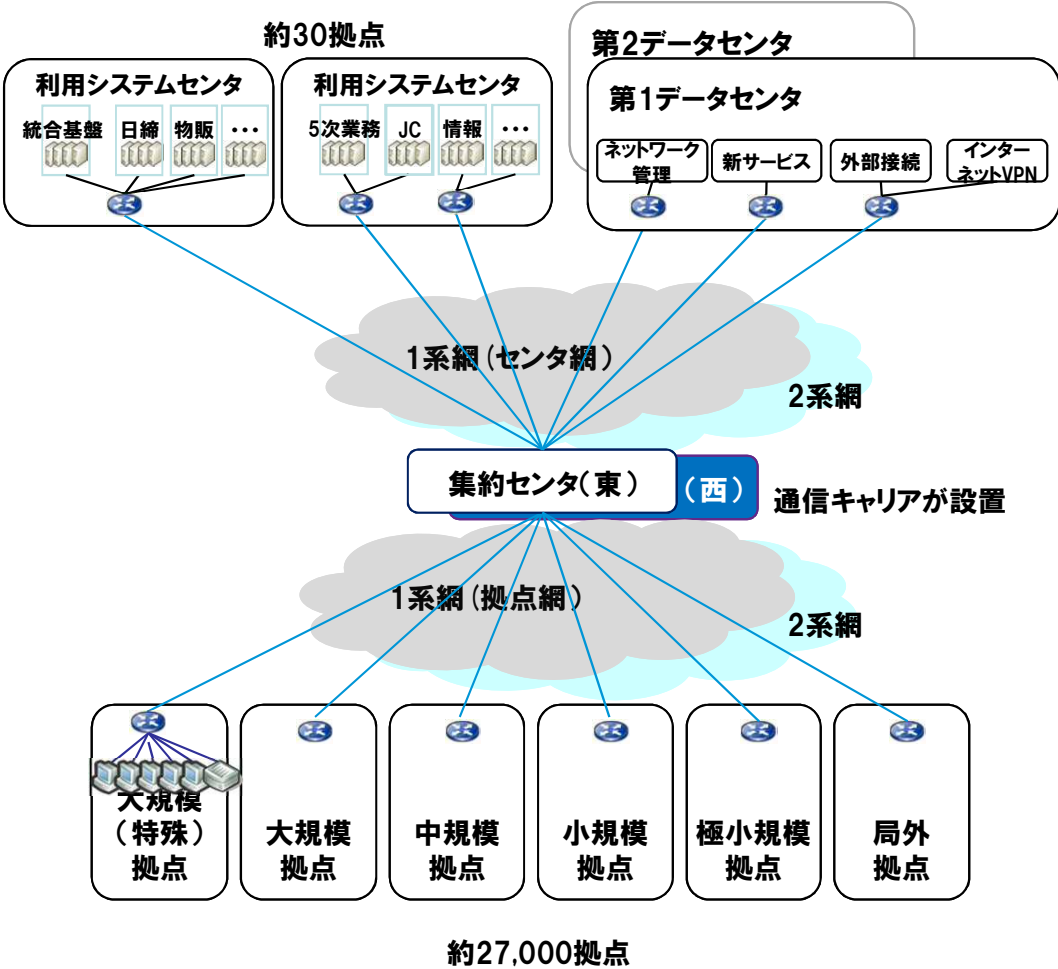


5次PNETの内容

1. 5次PNETの構成概要

PNET(郵政総合情報通信ネットワーク)は、郵便局に設置される端末機と各業務を行うシステムセンターを通信回線で結ぶグループ共有のネットワークシステム。

昭和62年からサービスを開始し、現在、5次PNETに更改しているところ。



2. センタ側通信網と拠点側通信網(左図参照)

- ・5次PNETは、
 - －全国2か所の「集約センタ」を介して、
 - －システムセンタ(日本郵政グループの事業運営に必要な各種データが収められている拠点)と
 - －各拠点(全国27,000の郵便局、ゆうちょ銀行支店、店外ATM等)を結ぶ通信網(センタ側通信網と、拠点側通信網の2階層で構成)である。
- ・本件は拠点側通信網が問題となっているものである。

3. 1系網と2系網

上記2で説明したセンタ側通信網と拠点側通信網は、それぞれ1系網と2系網から構成されている。その概要は以下のとおり。
なお、本件では、拠点側通信網の1系網と2系網の双方が問題になっているものである。

[1系網]

1系網とは、ネットワークに高い信頼性が求められるデータのやりとりで使用される回線であり、バックアップによる保全が図られる他、帯域保証型の通信を基本としている。
また、1系網の代表的な敷設方法は、NTTグループが所有するダークファイバをSBMが借り受けて敷設するという形態である。

[2系網]

2系網とは、ネットワークに経済性を求める回線であり、バックアップによる保全はなく、ベストエフォート型の通信のみが利用される。
また、2系網の代表的な敷設方法は、NTT東西が提供する光回線サービスであるフレッツ光ネクストをSBMが購入するという形で敷設するという形態である。